【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	富山県

Ⅰ 学校の概要(平成１５年４月現在)

学校名	大沢野町立大沢野中学校					
学　年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	7	1	２０	
生徒数	２１１	２２１	２５１	1(1年)	６８３	４０

Ⅱ 研究の概要

1．研究主題

生徒一人一人が『確かな学力』を身に付ける指導はどうあればよいか。
～個に応じた指導のための指導方法･指導体制の工夫を通して～

2．研究内容と方法

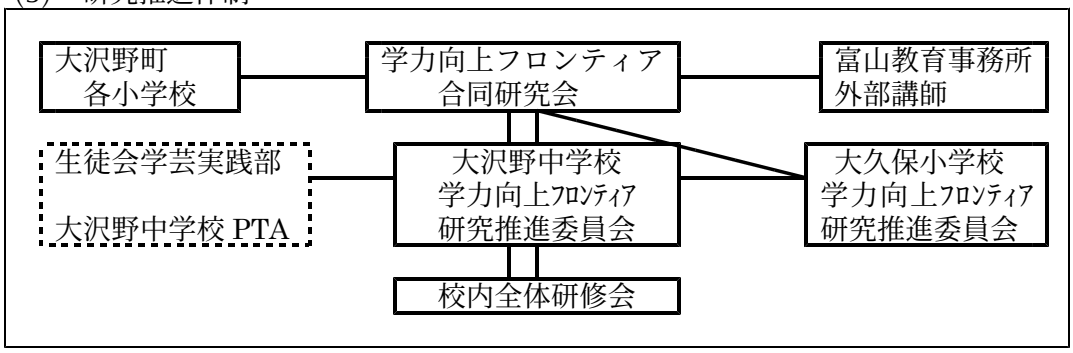
(1) 実施学年･教科　(2) 年次ごとの計画

・1年･数学　少人数習熟度別指導
生徒の理解の程度に差が出やすい教科、学年であるため。
同じく地区指定を受けた大久保小学校の算数科との連携を図るため。

平成15年度	○ テーマ 確実な学力の向上を目ざし､少人数習熟度別グループ編成の授業を実施し､「個に応じた指導のための指導方法･指導体制」を工夫する。 ○ 研究の見通し １学年数学科において、２学級を３コースに分けた少人数習熟度別の指導を効果的に行うことにより、生徒主体の楽しい授業･分かる授業を展開し、生徒が学習の達成感をもてるようにする。 ○ 研究の内容･方法 (1) 学力向上フロンティア校内委員会設置と指導体制の工夫 (2) 習熟度別コースの分け方の工夫 (3) コース別による指導方法の工夫 (4) 評価と数値化の工夫

平成16年度	○ テーマ 少人数指導･ティームティーチング･選択教科の効果的運用などを通して、「学力の向上」に全校体制で取り組む。 ○ 研究の見通し ２学年数学科及び他学年･他教科における少人数指導･ティームティーチング、選択教科の工夫･改善を通して、学習内容の定着と「学力の向上」を目ざす。 ○ 研究の内容･方法 (1) ２学年数学科の少人数習熟度別指導における工夫･改善 (2) 英･数･国･理における少人数指導･ティームティーチングについて工夫･改善 (3) 選択教科における補充および発展的学習の工夫 (4) 生徒会実践部活動における「学力の向上」に向けた取り組み

(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

(1)　学力向上フロンティア校内委員会設置と指導体制の工夫

１学年数学担当者と他学年数学担当者１名、教頭、教務からなる学力向上フロンティア研究推進委員会を週２時間、週時程に位置づけたことにより、事業の推進のための話し合いや教科担当者の打合せの時間をしっかり確保することができた。また、学年の保護者に対しては、４月第１回の学年保護者会、６月初め習熟度別学習に入る前の学力向上フロンティア事業に関する臨時学年保護者会、11月の学年保護者会で、事業の概要やコース分けの仕方、学習の様子等について話す機会をもち、啓発に努めている。

(2)　習熟度別コースの分け方について

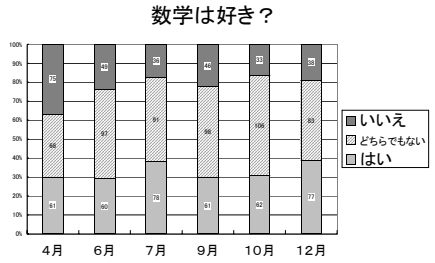
まず、生徒と保護者に向けてガイダンスを行い、授業内容や進み方に関する事前アンケートを実施し、その上で「チャレンジコース」(＝発展問題にチャレンジ)・「バランスコース」(＝基礎と発展問題の両方をバランスよく学習)・「マスターコース」（＝基礎をしっかりマスター)の中から、適すると思うコースを選択させた。コースのネーミングや並べる順序も、優越感や劣等感をもたせないように配慮した。１週間の試行期間を設け、合わないと感じたら移動できるように配慮した。また、実力と極端に異なるコースを選択した場合は、進度の速いコースに変えた方がよい場合のみ指導し､逆の場合は生徒のやる気をそぐと判断して避けた。人数の制約もあるが、基本的には本人の希望を尊重してコースを決定した。

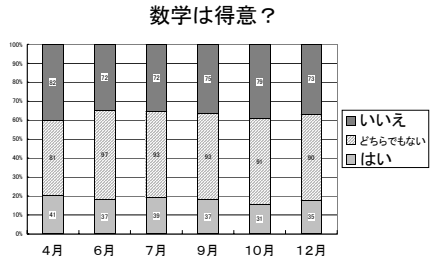
(3)　コース別による指導方法の工夫

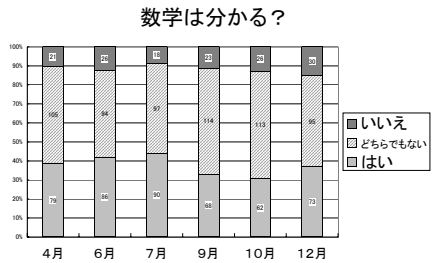
教科書の例題を基本として、①バランスコースはおもに従来の指導方法で、②マスターコースは既習事項の確認に時間をかけたり、数字を簡単にしたり、また具体物を提示してイメージしやすくするなど配慮して、③チャレンジコースは応用発展問題に競い合いながら数多くチャレンジさせるなど、指導方法や展開を工夫している。また、コース編成替えの際に教師も担当を変えたり、ｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙ(学校公開期間)や大久保小学校との合同研究会、学習参観などの際に積極的に授業公開したりしている。授業がオープンになり、教師が他の教師や生徒から刺激を受けて互いに指導法を学び合い、切磋琢磨し合えるよい雰囲気がある。

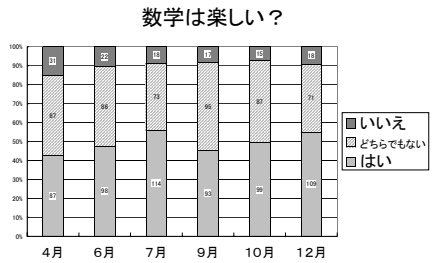
(4)　評価と数値化の工夫

毎時間の生徒の自己評価カードで、「授業の準備・分かりやすさ・集中度・積極性・興味・楽しさ」等について評価し、１時間ごとの個々の生徒の学習状況を把握している。また、単元の始まり終わり、コース替えの際に授業に関するアンケートを継続して実施し、数学が「好き・得意・分かる・楽しい」等について変化を追跡調査している。４０人近い生徒による一斉授業ではありがちな、ぼーっとしている生徒は見当たらず、分からないことを「分からない」と素直に言える雰囲気があり、どの生徒も積極的に授業に参加し、発表にも意欲的で一生懸命に取り組んでいる。当初の生徒の実態と比べると、「好きでない」と答える生徒は減少し、得意とは言えないけれど授業が楽しいと答える生徒が多く、学習意欲の面では少人数習熟度別学習が効果を上げていると考えることができる。









２．今後の課題

(1)　学力の向上について

「学力」には関心･意欲･主体性など生きる力につながるものと、基礎･基本の定着によるテストの点数に表れる学力の両面があるが、授業中の意欲がテストの点数の向上になかなか結びついていないのが本校の現状である。原因としてはより定着させるためのドリルが不足していることがあげられる。授業中できない生徒の状況をよく把握できるあまり、１つ１つの質問に答えながらゆっくり進まざるを得ない。また、教師の出張や定期考査を考慮してなるべく進度をそろえる必要があるため、現在の授業時数では、特に下位のコースの生徒にとってはドリルの時間が不足してしまう。また家庭における学習意欲が乏しく、家庭でのドリルも不足している。次年度は、選択教科の実施方法を工夫するなどして、ドリルの時間を確保していきたいと考える。

(2)　コース選択の方法について

「数式３章」「関数１章」「図形２章」のうち、「数式」と「図形」の導入段階は出席簿順の少人数グループで、その後アンケートをとって少人数習熟度別グループにするという方式をとった。２学期後半からはグループ替えの間隔が短く、リフレッシュはするが落ち着きに欠ける感がある。もう少し長い期間一人一人の生徒を一人の教師の目でじっくり見てやりたいという思いがある。コース編成の時期や内容をさらに改善する必要がある。また、ガイダンスをしっかり行い、試行期間を設けてコース選択させたが、それでも集まったメンバーによってコースを移動したり、自己理解が不足しているために実力以上のコースに入り効果が上がらない生徒もいる。学習効果のあるコース選択能力をつけるための手だてについても研究していきたい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

(1)　学力調査

①　新入生標準学力検査(NRT)　４月１５日　　国･社･算･理
　新入生のスタート時の学力の把握　全国平均との比較　全県との比較

②　中教研学力調査　　１１月１２･１３日　国･社･数･理･英
　観点別の達成状況　全県との比較

③　標準学力検査(CRT)　　３月９･１０日　　国･数･英
　１年間の観点別の目標到達状況　全国平均との比較　４月検査との比較

(2)　生徒の自己評価

①　毎時間の自己評価カード

②　学年当初と章末ごとのアンケート

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1)　小学校との合同研究会　第１回　平成１５年７月　７日(月)　大沢野中学校
　第２回　平成１６年２月２３日(月)　大久保小学校
　授業公開と講演会　　町内各小学校と近隣の中学校へ公開

(2)　大沢野･細入　幼･小･中地域課題研修会
　平成１５年１１月１２日(水)　　大久保小学校
　大久保小学校の授業公開と事後研修会において大沢野中学校より話題提供
　地域の拠点校として町内各小学校への普及の機会

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校･継続校】　✔ １５年度からの新規校　　１４年度からの継続校

【学校規模】　３学級以下　　４～６学級
　７～９学級　　１０～１２学級
　１３～１５学級　　✔ １６学級以上

【指導体制】　✔ 少人数指導　　Ｔ．Ｔによる指導
　その他

【研究教科】　国語　　社会　　✔ 数学　　理科
　外国語　　音楽　　美術　　技術･家庭
　保健体育　　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　✔ 有　　無